



公益財団法人 星総合病院

けんこう

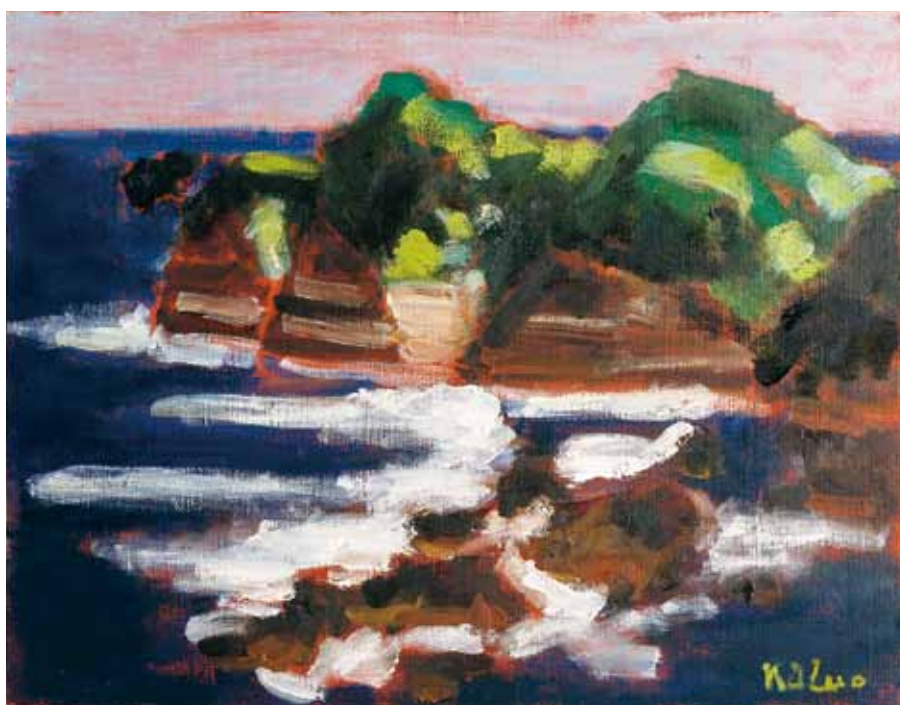
懸虹

平成28年1月 No.286

新年のご挨拶

二〇二五年問題に

どう取り組むか



五浦海岸 (P10、2002)

星 一雄

- ほしのこ保育園 事業所内保育事業開園式
- 第88回集談会
- 第31回海外研修 「キビタン健康ネット」 事業について
- 施設ニュース
- トピックス

醫 霊

臨床検査データが国民の健康管理や疾病の診断・予防に活用されるためには、広くその信頼性が保証されなければなりません。

その為、平成十九年から一般社団法人日本臨床衛生検査技師会(日臨技)と日本臨床検査標準協議会(JCLIS)は、共同して、臨床検査が、いつ、どこで実施されても、信頼の高い検査結果が得られるよう、臨床検査の標準活動を進めてきました。平成二十二年には、全国の健常者ボランティアア六千人の大規模な基準個体による基準範囲の設定に取り組み、平成二十六年に、日本医師会をはじめとする二十九学会・団体の同意あるいは賛同が得られて、日本臨床検査標準協議会(JCLIS)より『共用基準範囲』が設定されました。

医療の地域連携システムの構築とマイナンバー制度の導入に伴う『国民の健診検査データの活用』など、医療機関における検査データの統一が求められており、当院においても、精度の向上を図り、共用基準範囲の導入に向けて検討しています。

また、病棟採血、検査説明など臨床検査技師の病棟業務への参画など、チーム医療へも取り組んでいるところです。

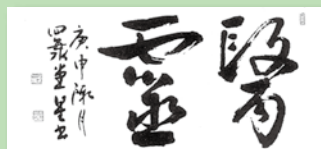
今後は臨床検査技師が、患者さんにとって身近に感じて頂けるよう活動していきたいと思ひます。

星総合病院 中央検査科
技師長 鈴木 弘子

<醫霊> 霊をも醫(癒)やしたい——という創始者の願いを医療従事者の医の心とすべく造られた当法人の理念

2025年問題にどう取り組むか

当法人の理念は、「醫靈」である。これは辞書には載っていない語である。創始者星一郎が、私達の持てる力を最大限に発揮してもなお救えなかった人々の靈に對し、その靈をも醫癒（いぐ）やしたい、それが医道を歩む者が生誕持ち続けなければならない覚悟であるという信念が込められている。医療医学は科学であるが、その対象は情と心を持った人間である。このことを常に念頭におき、科学と人間の間を埋めることが私どもの使命である。医の原点を見据えながら「醫靈」という理念の具現化を図っていきたい。



理念

公益財団法人星総合病院 理事長 星 北斗

明けましておめでとうございます。地域の皆様および関係各位には日ごろよりご支援とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、所謂2025年問題では、団塊の世代全員が後期高齢者に達し、大都市においても急激に高齢化が進み、社会の構造が大きく変化するとされています。これに対して、地域全体が強く連携しそれぞれの役割を果たすことによって、住民が住み慣れた地域でいつまでも健康で暮らせるよう、私たちも地域包括ケアシステムの構築に積極的に参加していく所存です。

今年診療報酬改定の年に当たり、医療機関にとっては厳しい年になりそうです。しかし、どのように社会が変化しようとも地域の皆様の健康を守るため、常に地域の皆様の声に耳を傾け、真に必要とされるサービスの提供に努めていきます。

今年は在宅部門をより充実し、旧星総合病院跡地を利用した地域に貢献できる計画を進めて参ります。また、未来を担う子供たちの保育事業にも積極的に取り組み、着実に事業を推進していく一年にしたいと思います。

本年もよろしくお願い致します。



公益財団法人星総合病院 総長院長 丸山 幸夫
ほし横塚クリニック 院長



新年明けましておめでとうございます。2025年問題とはご承知のように団塊の世代の人（広義では1947－51年生まれの1,000万人を言い2025年に75歳以上の後期高齢者になる人）が75歳以上になることで起こる問題を指しています。超高齢社会が来る結果、医療、介護、福祉サービスの需要は高まり、医療費、要介護（要支援）費などの社会保障費の増大が懸念されます。2025年問題への対策はこの急激な社会保障費の増大を抑えつつ、医療、介護、看護のサービスをしっかり提供することです。これらの解決は容易ではありません。しかし、やっていかねばなりません。社会保障給付費の総額は144兆円にもなるとの予想もあります。

そのために病院についてはIT化を推し進め病院運営の効率化などが求められていくでしょう。看護・介護サービス向上には地域包括ケアを徹底させることです。さらに、国民にも負担を求め健康保険料や自己負担額の増額などに協力いただく必要があります。これから迎える社会はこれまで経験したことのないものであり世界が注目しています。皆さんで知恵を出し合い2025年問題を克服していきたいと思います。

星総合病院 病院長 野水 整

新年あけましておめでとうございます。

新病院に移転して4年目の新春を迎えました。皆様のおかげをもちまして地域医療の中心的役割を果たす急性期病院として高い評価をいただいております、その役目はますます重いのとなってきました。福島県全体が医師不足とくに若手医師が増えないという悩みはありますが、人口減少・高齢化が進むいわゆる2025年問題に関しても、当院は関係各医療施設のご支援のもと2次救急病院あるいは高度な専門科を擁する病院として、病病・病診連携、在宅医療などの地域・医療圏全体のよりよい医療システム構築に今年も頑張っております。病院全体でモチベーションを維持し、安全で質の高い医療を地域の皆様に提供できるようさらに努力をしてみたいと考えております。





星ヶ丘病院 病院長 沼田 吉彦

明けましておめでとうございます。新しい平成28年が明けました。
「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本方針を掲げた「精神保健医療福祉の改革ビジョン」が厚生労働省から示されて12年が過ぎました。

今後は約800万人の団塊の世代が後期高齢者の仲間に入る、いわゆる2025年問題への対応が課題となります。大都市では高齢者が急増する一方、地方では高齢者を含めた総人口が減少すると言われています。この超高齢社会の到来に伴って、医療のシステムも従来の“病院完結型”から、地域全体で治し支える“地域完結型”の医療へ、また青壮年の患者さんを中心とした“cure”を目指す医療から、高齢の方々を対象にした病気と共存しながらQOLの維持・向上を目指す“care”の医療へと変貌が求められます。

私たちは精神障がい者等が地域で生活できる社会づくりを推進するため、患者やその家族、また地域の介護や福祉の専門家から選ばれる医療機関となるため、地域の特性や現状をしっかりと見据えながら、必要とされる精神科医療のニーズを把握した上で、精神疾患に対する質の高い医療はもちろん、適切な医療・福祉サービスを受けられる体制づくりに取り組んで参ります。

三春町立三春病院 病院長 渡辺 直彦



新年あけましておめでとうございます。

皆様には順調に新年をスタートできたものと喜び申し上げます。今年は診療報酬の改定があり、昨年からの継続として地域包括ケアシステム、地域医療構想など少子高齢化社会を背景とした地域医療の変革が進行しています。当院でも地域の実情に合わせて適切な対処を行い、また、計画をしておりますが、医療情勢により大きくシステムが変わる可能性もあり、院内外の職員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げる次第です。そして、このような流れのなかで大切なことは、私たちや私たちと関わるひとの幸せや利益を最優先にすることだと考えております。時代の荒波に流されないようにお互いに手を携えて協力し合うことをお願い申し上げます。

今年は当財団が指定管理者として町立三春病院を引き受けて九年目になります。これまでの皆様のご支援・ご尽力に感謝申し上げますとともに、十年間の仕上げに向けて職員一同力を合わせて頑張りましょう。



介護老人保健施設オリオン 施設長 森 慶秋

今年の干支は私の干支で申年です。12支ですから次回は90何歳かになりますね。もうあきらめて今年を精一杯生きようと思います。郡山に来てからでも45年になります。若葉町にあった星神経科病院です。現在の朝の回診は杖でなくて歩行器を押して歩いていきます。車椅子の入所の方々のことを考えればよしとしなければ。なんとか日々の仕事があって生活もできることには感謝しなければいけません。

社会福祉法人愛星福祉会 理事長 星 光一郎



新年、明けましておめでとうございます。本年も社福法人としての使命を果たせるよう努力して参りますので宜しくお願い申し上げます。

今年の4月と来年の4月の2年に亘り、公益財団法人よりも厳しい社会福祉法人改革が施行される予定です。

今後、若い就業世代の減少と高齢者の増加は、福祉分野全般における職員不足の問題をさらに深刻化し、その対応が出来るか否かが事業継続の鍵となります。敢えて問題を絞れば、給与体系の見直しと確立、子育て支援の充実に集約可能だと考えています。この2つの問題を切り詰めた予算の中で改善を図ろうとしたり、先送りにしようとしても、そろそろ限界です。一時期、日本医師会がある審議会で食指を動かした医療と福祉のホールディングカンパニーは体系の違う社福法人の給与水準で早々と頓挫し、社福法人改革の火種になった内部留保も実際に無いことが今年中には証明される状況ですので、益々財政が厳しさを増すことは必至です。私は、懸虹の新年挨拶に毎年のように書き続けていることがあります。それは医療と福祉の連携協力の大切さです。縦割りで無く官民関係機関等の協力を含め、達成可能な連携協力ができるのであれば、2025年問題にも対応できていると思います。

ほしのご保育園 事業所内保育事業開園式

平成27年11月30日



12月1日より市内の待機児童解消を目的とした「事業所内保育事業」を開始することになり、現在入園中の職員の子供達に加え、地域の子供達も入園できるようになりました。

改めて認可保育園でのスタートとして11月30日に開園式が執り行われ、品川市長から星理事長へ認可証が交付されました。

園児達によるくす玉割りや、元気な歌声になごやかな式となりました。

平成27年4月より「子ども・子育て支援新制度」が始まり、事業所内保育園による一般の子供達の保育は市内で初めてです。

第88回集談会

11月12日 メグレスホール

当法人では、地域医療機関の先生方と職員が最新の医療を学ぶ場、職員の研究成果の発表の場として、年2回集談会を開催しています。

今回の特別講演には、福島県立医科大学医学部 甲状腺内分泌学講座 主任教授の鈴木 眞一先生をお招きし「原発事故と甲状腺」をテーマにお話いただきました。

職員からは、10題の演題発表が行われ、それぞれの取り組みについて理解を深めました。今回は333名の参加がありました。

次回は平成28年6月を予定しています。



《一般演題》 総合司会 星総合病院 精神科 森 東

◎座長 星総合病院 看護部 齋藤 裕子

- | | | |
|---------------------------------------|-------------|-------|
| 1. 緩和ケア病棟における栄養士の関わり | 星総合病院 栄養科 | 花野 絵美 |
| 2. 慢性心不全看護認定看護師の活動状況・地域包括ケアへの取り組み | 星総合病院 救急病棟 | 李 民純 |
| 3. プライマリー患者に対する陰性感情の変化
～患者交代を導入して～ | 星ヶ丘病院 A-2病棟 | 大河原逸美 |

◎座長 町立三春病院 リハビリテーション科 瀬上 憲

- | | | |
|-----------------------------------|--------------------------|-------|
| 4. 精神科リエゾンチームの現状と今後の展開 | 星総合病院 リエゾンチーム | 桐生 亜紀 |
| 5. 入院型ペインマネジメントプログラムの取り組み | 星総合病院
慢性疼痛治療プロジェクトチーム | 岩崎 稔 |
| 6. 人工膝関節置換術後5日での自宅退院を目指した取り組みについて | 星の懸け橋プロジェクトチーム | 飛田 和寛 |
| 7. 三春町第1保育所の半年 | 三春町第1保育所 | 佐藤 正敏 |

◎座長 星総合病院 循環器内科 坂本 圭司

- | | | |
|----------------------------|-------------|-------|
| 8. 精神科早期介入が可能であった有機リン中毒の一例 | 星総合病院 臨床研修医 | 秋山 優人 |
| 9. 局在別に見た扁桃周囲膿瘍の臨床的検討 | 星総合病院 臨床研修医 | 橋本 千織 |
| 10. 当院乳腺外科における乳癌診療と病診連携の現況 | 星総合病院 診療部 | 村上 祐子 |

《特別講演》 座長 星総合病院 外科 片方 直人

演 題 「原発事故と甲状腺」

講 師 福島県立医科大学医学部 甲状腺内分泌学講座主任教授 鈴木 眞一 先生

第31回

海外研修

～ハワイ～

施設見学

(研修生全員で参加)

● ハワイ大学 (Sim Tiki Simulation Center)

ハワイ州唯一の医療シミュレーション施設として最新の機器が揃う



ハワイではドラッグストアでもスーパーやコンビニエンスストアのような店舗でも市販薬が販売されている。ドラッグストアでは日本と同じように医薬品の他に健康食品や食料品、化粧品などが販売されており、薬剤は成分ごとや効能ごとに陳列されていたが、日本に比べて1,000錠や500錠と容量が多く、1ボトル10-15ドル程度で販売されていた。抗アレルギー薬等の新規薬は5錠で8-10ドル程度と比較的高額であり、これらの薬剤は保険を使う方が負担額は少なくなる。

アメリカには高齢者と身体障害者を対象としたメディケア (Medicare) と低所得者を対象としたメディケイド (Medicaid) という公的な保険があるが、一般市民は民間医療保険への加入が多く、掛け金も自己負担も高いことが知られている。医療費が高額なハワイ (アメリカ) では、まず自分で薬剤を選択、症状が改善しない場合には医療機関へという流れになることは納得できる。コンビニ受診の減少や医療費の削減には有効だが、悪化して医療費が高額になったり、医療費が払えず加療を受けられない人が出ることが予想される。

薬剤は、店舗の薬剤師に相談できるが、用法や容量を間違えて最悪の場合には命にかかわる可能性もあるということを感じた。

また、アメリカは移民の国であり、ハワイも多く移住者を受け入れてきた。移民たちは雇用機会やより良い生活を求めて入国するが、第1の産業である観光業に労働人口の約1/3、第2の産業である軍需産業と公務員を

当法人では、勤続10年を迎えた職員および研修医を対象に海外研修を実施しています。

今年度は20名が参加し、11月16日～22日の5泊7日の日程でハワイの医療事情やそれぞれの自己課題について研修に取り組んできました。

自主研修

(ハワイ在住の医師3名が勤務する病院や施設を小グループで見学)

● クアキニメディカルセンター

／ハレプラママウ

日系移民のために設立、現在はハワイ保健省認可の非営利団体による急性期病院と併設された老人医療施設

● クイーンズメディカルセンター

ハワイ州最大の私立病院

● カハラヌイ

日本でいう有料老人ホームやケアハウスが併設した施設

● 星総合病院 診療部 研修医 細谷 満美子 ●

加えるとハワイの就業者の大多数を占める。結果的に残り少ない求人に大勢の人が押し寄せ、雇用機会は決して多くない。

オアフ島にKalihi (カリヒ) という貧困者の多い地域があり、従来はハワイアン系、サモア系、南アジア系、フィリピン系が多かったが、最近マイクロネシア圏内からの移民も増加している。その要因として冷戦時代のビキニ環礁での原爆実験で強制退去させられた島民たちの移住があるが、政府からの居住地保障などもなく、物価が高い為、ホームレスとなる人も多い。Kokua Kalihi Valley (KKV) というクリニックでは、小児科医と弁護士が同じ施設にオフィスを構え、貧困層や移民層の医療・社会的な問題解決のためのMedical-LegalPartnership for Children in Hawaii (MLPC) を設立していることを事前に調べていたが、ワイキキでもベビーカーに荷物を載せ、路上で寝ている人の姿を見かけた。日本でも日雇い労働者の多い地区があり、国民健康保険料を納められない患者もいることから、診療する際に社会的な援助を受けられるように配慮するなど積極的に取り組んでいくべきだと思う。

市販薬は知識があればアメリカの販売スタイルでもよいと思うが、最近ではインターネットなどで個人輸入していることもあり、日本での診療も市販薬のどのような薬剤を使用したのか聞く必要があるのではないかと感じた。

福島県医療情報ネットワーク 「キビタン健康ネット」 事業について

星総合病院地域連携室 椎名 亨



福島県医療情報ネットワーク「キビタン健康ネット」は、今年度よりスタートした福島県全体を網羅する地域医療連携ネットワークシステムです。ICTを活用し、医療機関における患者さんの検査結果や画像データ、処方内容等を、患者さんの同意のもとに地域の医療機関や介護老人保健施設、薬局で共有し、診療や処方に役立てることが可能となります。当法人では、星総合病院、三春病院、ほし横塚クリニック、介護老人保健施設オリオンがこの事業へ参加しています。

これまで、医療機関において特定の患者さんの診療情報を他に提供する場合は、「診療情報提供書(紹介状)」を用いて行ってきました。また、薬局においては、これまで医療機関での患者さんの診療内容を確認することは出来ませんでした。患者さんにとって、適切な医療サービスを安全にかつ効率的に受けるためには診療情報や処方内容の共有化は非常に有効です。上手く活用すれば、地域のクリニックと当院のような中核病院との連携もこれまで以上にスムーズになります。また、薬局においても診療情報や処方内容が共有化されることにより適切な服薬指導が受けられるだけでなく、複数の医療機関から同じ薬の処方を受けるいわゆる「二重処方」の減少にもつながる可能性があります。

しかし、現状ではいくつかの制約もあります。前述のように「キビタン健康ネット」で共有されるデータは、検査結果や処方内容等の客観的データのみであり、医師のカルテ記載内容等は対象外となっています。また、当然ながら情報の開示には患者さんの同意が必須であり、しかも同意は医療機関毎に必要となるため、ある患者さんが「キビタン健康ネット」に登録したからといって、以後その患者さんの情報がネットワーク上で自動的に共有可能になるわけではありません。診療に関する情報は非常に高度な個人情報です。そのため、セキュリティ対策は万全でなくてはなりません。将来的には、患者さんが最適な医療や介護のサービスを効率的に受けるために、地域での医療や介護に関する情報が一元的に管理されるような仕組みが必要かもしれません。

「キビタン健康ネット」は、今産声をあげたばかりです。今後私たち医療機関が中心となり、地域の住民の皆様と協力しながらより良い医療情報ネットワークに育てて行くことが重要であると思います。



施設ニュース

星 総 合 病 院

第7回郡山緩和ケアネットワークの集い 第3回市民公開講座開催

11月28日

「終活を考える」～最期を迎える場所をめぐって～と題し、自分や家族にとって‘よき死’とは何かを考える市民の方を対象にしたシンポジウムが開かれ、100名の方が参加しました。緩和ケア認定看護師の講演をはじめ、お父様を看取られたご家族のお話、「その時までには人は何を準備しなければならないか」と題した葬儀に関するお話、「サービス付き高齢者住宅で迎える死」と題したお話、「自宅で迎える死」と題した訪問看護ステーション所長のお話と、現代における様々な死の迎え方について考えるきっかけとなりました。



地震・火災総合訓練 11月5日

職員約140名が参加して福島県沖を震源とした地震発生、診療棟2階レストラン厨房からの出火を想定した消火・通報・避難訓練を実施しました。

また郡山消防署の協力を得て、消防車による脱出・放水訓練、トリアージ訓練も行われ大規模な訓練となりました。



介護老人保健施設オリオン

第6回介護教室開催

11月14日

「おいしく食べて認知症予防」というテーマで利用者さんのご家族を対象に開催し、栄養士による講義、オリオンでも取り入れている食前嚥下体操を体験いただいた後、昼食の試食会を行いました。次回は3月を予定しています。



クリスマスコンサート

星総合病院・ 星ヶ丘病院／介護老人保健施設オリオン

12月19日

星総合病院メグレズホールでは、ほしのご保育園・星ヶ丘保育園による歌と踊り、三春町敬老園・介護老人保健施設オリオン合同チームによる歌と踊り、職員同好会「ホクアオ」によるフラダンス、郡山第七中学校による合唱、郡山北工業高校吹奏楽部による演奏が行われ、患者さんや市民の方250名が鑑賞されました。

星ヶ丘病院と介護老人保健施設オリオンでは、あさか開成高校吹奏楽部による演奏が行われました。

それぞれ趣向を凝らした演出で、患者さんや地域の方に一足早いクリスマスプレゼントを届けていただきました。



保育園



ほしのご保育園
はっぴょうかい 12月13日



星ヶ丘保育園
おゆうぎ会 12月6日



三春町第一保育所
おたのしみ会 12月4日

沢山の観客に園児たちは緊張気味でしたが、日頃の練習の成果を元気いっぱい披露しました。

トピックス

平成27年度介護職員初任者研修修了式

11月28日平成27年度介護職員初任者研修修了式が行われました。

6月～11月までの6か月、22日間の全講義が修了し、受講生12名に修了書を授与しました。

平成28年度も介護職員初任者研修を実施予定です。



テレビ放送のご案内

福島中央テレビ「福島ドクターズTV」
1月17日(日) 12:45～13:05

『抗がん剤治療』をテーマに福島医大腫瘍内科学講座主任教授・臨床腫瘍センター部長 佐治重衡先生と野水病院長のインタビューが放送される予定です。

精神保健福祉事業 功労者

第63回精神保健福祉全国大会において、星ヶ丘病院の沼田吉彦病院長と心理室の安藤ヒロ子係長が精神保健福祉事業功労者として厚生労働大臣より表彰されました。



キラリ☆ふれあい広場 1月のご案内

どなたでもご自由に参加いただけます。(参加費無料)
12日、26日にメグレズホールにて開催します。

《ミニミニ健康教室》

12日	○10:20～10:30	健康体操 「アタマとカラダの運動をしましょう！」
	○10:30～11:00	健康講座 「ロコモを吹き飛ばせ！」理学療法士
26日	○9:50～10:00	健康体操
	○10:00～11:00	特別講演 「どうせ死ぬならがんがいい？パート2」 緩和ケア内科部長 関 茂樹

《こおりやまオレンジカフェ☆キラリ☆》 郡山市委託事業

11:00～12:30 参加費：200円(飲み物・お菓子付き)

※病院スタッフが認知症に関する困りごとについて対応いたします。



公益財団法人 星総合病院

●星総合病院

〒963-8501 福島県郡山市向河原町159番1号
TEL 024-983-5511

星総合病院 在宅介護支援センター

TEL 024-983-5515

ほしのご保育園

TEL 024-983-5519

●星ヶ丘病院

〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地
TEL 024-952-6411

星ヶ丘訪問看護ステーション

TEL 024-962-1711

居宅介護支援事業所星ヶ丘

TEL 024-952-6414

星ヶ丘保育園

〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地3号

TEL 024-951-0788

●介護老人保健施設 オリオン

〒963-0211 福島県郡山市片平町字峯三天2番地

TEL 024-952-6413

●三春町立三春病院(指定管理)

〒963-7752 福島県田村郡三春町字六升蒔50

TEL 0247-62-3131

三春訪問看護ステーション

TEL 0247-73-8270

●ほし横塚クリニック

〒963-8803 福島県郡山市横塚二丁目20-36

TEL 024-956-7778

星訪問看護ステーション

TEL 024-956-2322

芳賀・小原田地域包括支援センター

TEL 024-941-1121

●星訪問看護ステーション しずか

〒963-0209 福島県郡山市御前南5丁目18番地 ウエストパーク8棟102号

TEL 024-983-6410

●養護老人ホーム 三春町敬老園(指定管理)

〒963-7752 福島県田村郡三春町字六升蒔50番地の1

TEL 0247-62-3618

●ボラリス保健看護学院

〒963-8801 福島県郡山市向河原町159番7号

TEL 024-983-5010

●三春町第1保育所(指定管理)

〒963-7769 福島県田村郡三春町担橋1-4-1

TEL 0247-62-3839

ご意見をお聞かせ下さい。

ホームページアドレス

<http://www.hoshipital.jp>

発行／公益財団法人星総合病院

編集／法人広報部

発行日／平成28年1月

住所／〒963-8501

郡山市向河原町159番1号

平成二十年に入職し、星ヶ丘病院の事務部にありましたが、十二月に広報部に配属になりました。今回初めて懸念の発行に携わることになり、これまで何度も目にしていた景色や光景も取材という視点で改めて見てみるとまた違った一面がうかがい知れるものだと感じています。

今後、法人の取組みを沢山紹介して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

広報部 田平

編集後記